

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ◎ 「明日も行きたいと思う学校」
◎ 地域で豊かに生きていく力の育成をめざす。
本校において、豊かに生きていく力とは、
1 豊かなこころ 2 楽しむ力 3 体力 4 コミュニケーション力 の4つの力を重点とする。

2 中期的目標

- 1 安心安全な学校生活を送る体制をつくる。(新型コロナウイルス感染症にかかる対応を含む)
(1) 教職員全員が人権意識を高め、児童生徒の人権を尊重する。
(2) 子どもの生命・健康を守る。*危機管理体制(感染症対策を含む)を充実させ、緊急時における児童生徒の安心安全を確保し教育活動の継続を図る。
(3) 教育相談体制の整備を図る。
(4) 教職員の健康管理をするために、働き方改革を進める。
- 2 障がいの多様化に応じた教育活動の展開ができるよう教職員の資質向上を図る。
*すべての教職員が互いの同僚性を認め、資質を高めあう教育を実践する。
(1) 知的障がい支援学校として計画的で効果的な授業力向上の研修・研究に取り組む。
(2) 専門性向上のため外部研修に参加する。
(3) 教育相談体制の整備を図る。
(4) ICT機器の活用やタブレット端末を使用して、児童生徒が主体的に取り組める授業を実施する。
- 3 小学部中学部高等部の継続性のある系統的なキャリア教育を実践する。*学校教育自己診断 教職員アンケートにおいてR6年度まで肯定的意見80%以上の維持をめざす。(R3 80%)
(1) 小学部中学部高等部12年間をつなぐキャリア教育の実現をはかる。
(2) 児童生徒が自己肯定感を高め、地域社会で豊かに生きていく力を育てる。
- 4 特別支援教育のセンター的機能を発揮し、開かれた学校づくりを推進する。
(1) 地域の学校園に在籍する障がいのある幼児児童生徒支援の充実を図る。
(2) 相互に尊敬する気持ちを育むため学校間交流を計画的に実施する。
(3) ホームページ等の活用を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分] | 学校運営協議会からの意見 |
|---|--|
| <p>A(よくあてはまる) B(ややあてはまる)を肯定的回答、C(あまりあてはまらない) D(あてはまらない)を否定的回答としてとらえ分析した。</p> <p><保護者> 回収率72.6%(前年84.5%) ・全27項目中17項目が肯定的回答90%以上の回答で、概ね高評価を得た。 ・新設した感染症対策に関する項目が肯定的回答92%と高く評価された。 ・交流に関する項目、ホームページに関する項目は否定的回答が20%を超えたが、前年に比べ改善傾向にある。 ・学校の施設設備、学習環境に関する項目は、依然として評価が低く継続的な課題である。</p> <p><児童生徒> 回収数137(前年171) ・肯定的回答90%以上の項目は6(全17項目)、否定的回答30%以上の項目は4、前年比で大きな差異はない。 ・交流に関する項目は、保護者、教職員と同様に否定的回答が多いが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための制限が大きく影響した。</p> <p><教職員> 回収率100%(前年100%) ・肯定的回答90%以上が8項目、前年の2項目より増加し、否定的回答30%以上が13項目から9項目と減少した。 ・肯定的回答においては、安全指導の徹底に関する項目が、ヒヤリハット報告の共有が要因となり大幅アップ、またICT機器の授業や公務での活用に関する項目が93%と増え、それに合わせて授業や行事の計画や工夫に関する項目もアップした。 ・否定的回答においては、学校経営計画をもとに新設した働き方改革の推進</p> | <p>第1回 令和4年5月27日(金) 【議題】 ○ 会長・副会長選出 ○ 令和4年度学校経営計画について ・安心安全な学校生活を送る体制をつくる。 ・障がいの多様化に応じるため、教職員の資質向上を図る。 ・キャリア教育の実践 ・開かれた学校づくりの推進 《委員より》 ・大規模災害における児童生徒引き渡しについては、実際の災害発生時、道路の寸断や公共交通機関の遮断等が考えられるので、様々な指定が必要。 ○ 令和3年度進路状況について ○ 令和4年度教科書について 以上、承認された。</p> <p>第2回 令和4年11月24日(木) 【議題】 ○ 令和4年度 学校経営計画進捗について 《委員より》 ・訪問相談の現状について ・訪問相談の地域の小学校への周知について更なる工夫を。 ○ GIGAスクール構想進捗について 《委員より》 ・会議資料のペーパーレス化は働き方改革に結びつく。 ・ICT活用はまず、教員も子どもたちも「慣れる」ことから。</p> |

府立思斉支援学校

に関する項目、研修・研究参加後の伝達に関する項目で評価が低かった。

【次年度の重点課題】

学校経営計画中期的目標の「障がいの多様化に応じた教育活動ができるよう教職員の資質向上をはかる」を受け、次の2点を次年度の重点課題とする。

- ①研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝達する仕組みの構築
- ②初任者や経験の少ない教職員を育成する仕組みの構築

- ・タブレット利用の促進に仕向けて、全教職員の意識を変えていくのは大変だが、頑張ってもらいたい。
 - ・タブレットの活用は、支援学校でこそ重要。学校で活用方法を探ってもらいたい。支援学校のソフト開発にも期待する。
 - ・GIGA スクール構想の取組みは保護者にも周知する必要がある。
- 以上、承認された。

第3回 令和5年2月17日（金）

【議題】

- 令和4年度 学校経営計画 達成状況について
《委員より》
 - ・相談室では、将来的には保護者の相談も行えるように。
 - ・ヒヤリハット報告の仕組み作りが必要。
 - 令和5年度 学校経営計画 めざす学校像及び中期的目標について
《委員より》
 - ・了承。
 - 令和4年度 学校教育自己診断結果と分析について
 - ・全児童生徒が回答できるような工夫が必要。
 - 思斉支援学校のキャリア教育 報告
- 以上、承認された。

府立思斉支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標[R3年度値] | 自己評価 |
|--------------------------|-------------------------------------|--|--|---|
| 1 安心安全な学校生活を送る体制をつくる。 | (1) ・教職員全員が人権意識を高め、児童生徒の人権を尊重する。 | (1) ・ハラスメント・体罰・不適切な指導の防止などの研修の実施をする。 ・令和3年策定した、セキュリティポリシー実施手順の運用について実態に即したものに改善する。 | (1) ・年間3回実施するうち1回は少人数でのグループワーク形式で行う。 ・個人情報の事故ゼロをめざす。[2件] | (1) ・外部講師によるハラスメント研修、グループワークによる研修、卒業生保護者様による講話及びワークの年間3回実施した。(○) |
| | (2) ・子どもの生命・健康を守る。 | (2) ・感染症対策を継続し教育活動の維持を図る。 ・ヒヤリハット報告を職員朝礼で行い、教職員で共有する。 ・大規模災害、緊急時を想定し保護者引き渡し訓練を実施する。 ・大規模災害時初期対応マニュアルを策定し避難所設置までの対応を図る。 ・学校防災アドバイザーを活用した危機管理体制の充実を図る。 ・アレルギー事故防止に努める。 ・肥満・やせについての指導・助言を行う。 | (2) ・「新しい生活様式」を取り入れ、計画された学校行事を実施する。 ・速やかにヒヤリハット報告を共有し原因分析を行い、再発防止に努める。(分析は年2回) [14件] ・年間1回、実施する。 ・マニュアルを完成させる。地域を含めて確認を行う。(区役所との連携) ・地域(近隣の保育施設)とともに継続的な防災に関する取り組みの立案をする。 ・アレルギー事故ゼロを維持する。 ・当該児童生徒の保護者を対象に養護教諭・栄養教諭を中心に年1回指導・助言を行う。 | (2) ・芸術鑑賞会・思斉祭・作品展では、感染症対策を徹底し実施した。 ・前期終業式・後期始業式を Web 会議システムにて実施した。(○) ・ヒヤリハット事案発生後、翌日の職員朝礼で情報を共有した。また、集計、分析を実施し、職員会議で報告した。(○) ・緊急時の想定が多岐にわたり、調整不足のため、今年度は実施できなかった。(△) ・大規模災害初期対応マニュアルを完成させ、学校防災アドバイザーや地域と連携して確認を行った。(○) ・学校防災アドバイザーや地域と連携し、大規模災害を想定した防災訓練を立案し、実施した。(○) ・年度当初に給食時のアレルギー対応研修を実施し、アレルギー食材と対象者を毎日職員朝礼で共有した。アレルギー事故ゼロ (◎) ・肥満、痩せの児童生徒を中心に、希望する児童生徒を対象とした「食生活・生活習慣に関する相談」を実施した。(○) |
| | (3) ・教育相談体制の整備をする。 | (3) ・相談室を設置する。 | (3) ・児童生徒が直接相談できる仕組みを構築する。 | (3) ・相談室の設置にあたり、相談員の選定を行い、児童生徒・保護者への案内文書、申込票、相談記録票を整えた。(○) |
| | (4) ・教職員の健康管理のため働き方改革を進める。 | (4) ・週1回、ノー会議ディを設定し、時間外労働の削減をする。 | (4) ・月 45 時間以上の時間外勤務を5%以下にする。[6.5%] | (4) ・毎週水曜日をゆとりの日とし、極力会議を設定しないようにした。R4全体会議の設定数は0件、全校悉皆研修1件。月 45 時間以上の時間外勤務は3%であった。(○) |

府立思斉支援学校

| | | | | |
|---------------------------------|---|---|---|--|
| <p>2 障がいのある教職員の資質向上を図る。</p> | <p>(1) ・計画的で効果的な授業力向上の研修・研究に取り組む</p> <p>(2) ・専門性向上のため外部研修に参加する。</p> <p>(3) ・ICT 機器の活用やタブレット端末を使用して、児童生徒が主体的に取り組める授業を実践する。</p> | <p>(1) ・授業見学週間を設定し、他学部の授業を見学する。</p> <p>(2) ・近知研などの外部研修に教員を派遣する。</p> <p>(3) ・教員にタブレット端末を配付し、指導事例を共有する。</p> | <p>(1) ・授業見学をできる制度設計を行う。</p> <p>(2) ・外部の研修に3回以上派遣し、その内容の伝達講習を実施する。</p> <p>(3) ・タブレット端末を活用した公開授業を年間3回実施する。</p> | <p>(1) ・初任者研修・インターミディエイト研修、アドバンス研修・10 年次研修の研究授業は公開授業とし研究協議も実施した。(14 件)(◎)</p> <p>(2) ・本校のテーマ別研修、他校の夏季公開講座、近知研に教員を派遣し、紙面上での伝達は行った。(△)</p> <p>(3) ・タブレット端末員等の ICT 機器を活用した校内公開授業を指導事例としてホームページに公開した。(7回)(○)</p> |
| <p>3 系統的なキャリア教育の実践を図る。</p> | <p>(1) ・小学部中学部高等部 12 年間をつなぐキャリア教育の実現をはかる。</p> <p>(2) ・児童生徒が地域社会で豊かに生きていく力を育てる。</p> | <p>(1) ・小学部「生活」中学部「職業・家庭」高等部「職業」の教科で教員が身につけさせた力がついているかどうか、児童生徒が自己診断する。</p> <p>・地域の事業所や企業など地域資源の活用を図る。</p> <p>(2) ・「自己肯定感」を高めるよう、地域と連携した活動をする。</p> | <p>(1) ・児童生徒の自己評価をあげる。(4月と 10 月にアンケートを実施し、結果を比較する。)</p> <p>・外部からの講師を招き、体験的活動を実施する。(年間2回以上外部講師を招く。)</p> <p>(2) ・中学部高等部中心に区役所と連携し自転車のメンテナンスを実施する。</p> | <p>(1) ・4月と 10 月の自己評価を比較すると、小学部、中学部の児童生徒は大幅に向上していた。高等部の生徒は低下している項目もあった。(△)</p> <p>・外部講師招への計画から変更し、小学部高等部の交流学习、他の支援学校職業コースとの交流、保護者のためのペアレントトレーニングを実施した。(△)</p> <p>(2) ・中学部において区役所と連携した自転車メンテナンスの活動を実施した。(○)</p> |

府立思斉支援学校

| | | | | |
|--|---|--|---|---|
| <p>4 特別支援教育のセンター的機能を発揮し開かれた学校づくりを推進する。</p> | <p>(1) ・地域支援の充実を図る。</p> <p>(2) ・近隣校や居住地校との交流活動を実施する。</p> <p>(3) ・ホームページ等の活用を図る。</p> | <p>(1) ・夏季休業中に「公開講座」を開催する。</p> <p>・リーディングスタッフを中心とし、支援部として地域支援に対応する。</p> <p>(2) ・各学部ごとに学校間交流を再開する。 ・小学部は希望者に居住地校交流を実施する。</p> <p>(3) ・ホームページの内容の充実を図る。</p> | <p>(1) ・公開講座を3講座開催する。うち1講座は授業実践報告とする。(Web 講座の開催方法も検討する)</p> <p>・相談実施校には、大阪府教育庁が作成した「リーディングスタッフ訪問相談後の聞き取りアンケート」を実施し、肯定的意見85%を目ざす。 [30 ケース 内訳ケース相談 26 研修講師 5 検査1 情報提供5ケース相談複数回含む]</p> <p>(2) ・小学部1校、中学部1校、高等部2校との学校間交流を1回以上実施する。 [小(1回)、中(0回)、高(2回)]</p> <p>・希望者に対して居住地交流をすべて実施する。[希望件数9件 実施件数6件]</p> <p>(3) ・行事や各学部の様子など発信頻度をあげる。(学校行事、各学部行事等 50 回以上の更新)</p> | <p>(1) ・公開講座は「自立活動」「障がい児のメンタルヘルス」をテーマに2講座実施した。授業実践報告は、HP 上で行った。(△)</p> <p>・訪問相談 65 件、来校相談3件、研修講師1件、計 69 件に対応した。本年度からアンケート項目の内容が変更されたため、各学校の肯定的意見を数値化できなくなった。 しかし、ケース会議や大阪市教委が主催する各区CO連絡協議会において、地域の学校から、訪問相談の効果について肯定的な意見を多数頂いている。(○)</p> <p>(2) ・小学校作品展への作品展示、中学校ニーズルームとの交流、高校体育祭・高校文化祭、各1校と交流を実施した。(○)</p> <p>・小学部希望件数9件中4件、中学部希望件数1件中1件を実施した。(○)</p> <p>(3) ・給食7件、行事等 14 件をホームページに公開した。(△)</p> <p>・保護者配布プリントに本校のホームページの QR コードを掲載し、ホームページの体裁を見やすいように整えた。(○)</p> |
|--|---|--|---|---|